

Hripsime Vardanyan

私は、コーカサス地方にあるアルメニアから ADRC に来ました。この地方にある国々は、数々の自然災害と人災に悩まされています。こうした様々な災害による被害の中で、この地域において最も大きな被害を与えているのが、大地震であると分析されています。この地方で歴史上最も大規模な被害を与えたのが、1988年12月7日にアルメニアを襲ったスピタク地震でした。この地震による死者は25,000人、負傷者が20,000人、そして515,000人が住むところを失いました。



今後、新たに地震が発生した場合、それに伴って地すべり、火災、洪水、その他人災などによる二次災害が心配されると同時に、この地方の国々における近年の都市化の進展や人口増加によって、地震による被害がこれまで以上に拡大することが予想されます。スピタク地震をはじめとするさまざまな地震からの教訓や、地震活動の活発化を考慮すると、地震対策は住民の命を守るために決定的に重要な課題であるといえます。

私は、アルメニア政府の国立地震被害軽減研究所で勤務しています。研究所の主たる目的はアルメニアにおける地震による被害発生を軽減することにあります。こうした背景から私は ADRC の客員研究員として勤務することが非常に有益であると考えました。ADRC の客員研究員に選ばれたことを非常に嬉しく思います。

3ヶ月という非常に短い期間だったにも関わらず、私は様々な研究機関や政府組織を訪問することができました。また、2回にわたってアルメニアの防災体制や災害状況などについてのプレゼンテーションをすることもできました。これらは私にとって本当に貴重な経験でした。

さらに、私は3月24日にマグニチュード6.4の地震が発生した広島県、愛媛県の被災地域を視察する機会もあり、様々な被害の状況を実際に目にすることができました。こうした ADRC での様々な活動を通じて、私は多様な防災システム、地震対策、初期警報、住民啓発、GIS システム等について深く学ぶことができました。国に戻ってこれらの経験を我々の国でも生かしていきたいと思っています。

ADRC の客員研究員プログラムは、メンバー国に災害経験のための世界各地における経験を学ぶための非常に貴重な機会を与えてくれるものです。最後になりましたが、滞在中いつも必要なときに手を差し伸べてくれた ADRC スタッフのみなさまの温かいご支援に感謝したいと思います。